



# 月刊 千葉労働

## 千葉運転区支部

### 「JR総連へ」 「解体へ」

### 恒常的スト 体制固め

#### ●九六年度役員体制

役職	氏名
支部長	小倉邦夫
副	古川政史
副	岩瀬孝一
書記長	山口世修
執行委員	大木孝
"	渡辺和芳
"	鈴木和夫
"	山口俊雄
"	小柴光一
"	宮重芳正
"	佐久間篤志
"	花崎勤
"	関和俊
"	力根正和
"	渡辺正人
特執	五十嵐和夫
"	椿裕明
会計監査	小倉培次
"	入倉崇英

千葉運転区支部は、十一月九日、千葉市民会館において、「第二〇回支部定期大会」を開催し、新執行部と闘う方針を確立した。

大会には、組合員・来賓七十名が結集し、古川支部長の司会で始められ、議長には渡辺委員が選ばれ、熱気を持って進められた。

冒頭、椿支部長が「いつでもストには入れる体制を維持して組織破壊攻撃を許さず、団結を打ち固め突き進んでいこう」という力強いあいさつを行い、続いて来賓の中野委員長から、「分割・民営化十年目を迎えてあらゆる矛盾が噴出してきている中で、今までの権力体制を維持していくためには、JR総連が会社と一体となって動労千葉や国労を攻撃してくるのは明らかだ。ここをどうやって打ち砕いて行くのかが重大だ。JR総連を解体・一掃するために恒常的スト体制を維持して組織拡大の闘いとともに関係して」とある。

いさつをうけた。続いて議事に入り、大会延期承認、九五年度決算、九六年度運動方針案、九六年度予算案が提起され、質疑応答に入った。質疑では、「当局の異常時対応の悪さは、ひどすぎる。われわれ一人一人が運転保安を守っていかなければならない」など

活発な意見が出され、方針は満場一致で承認された。続いて、新執行部(別表)が選出された後、新旧役員あいさつ、議長解任あいさつ、閉会のことばの後、小倉新支部長の力強い団結ガンバロー三唱で第二〇回支部大会は成功のうちに閉会した。

## 木更津支部

### 「活発な」 「討論で」 「闘う方針を」 「確定」

十一月六日、木更津支部第一九回定期大会が開催された。

大会の冒頭、鈴木支部長は、「昨年の大会以降の一年間は、勝浦運転区廃止攻撃をめぐるストライキに始まり、支区長の不当労働行為問題、車輪の偏磨耗問題など、大変な闘いをやりぬいてきた。皆さんの協力があってきたからこそ団結を守って闘いぬくことができた。国鉄闘争は正念場を迎えており、これからも「がんばろう」と提起。本部長が委員長の来賓あいさつを受けたのち、執行部から運動方針案が提起され、活発な質疑討論が行なわれた。(だされた主な意見は次のとおり)

- 駅は、プール要員体制にされているが、年休など必要な時に助勤が来るのではなく、予めプール駅から人を送る日を決めてしまっているような運用をしている。
- 駅は人が足りなくなつて欠員が生じている。また、玉突きで助勤が送られるので、年休がとれなくなっている。
- この間、電車運転士からの転換教育によって気動車運転士要員補充が行なわれているが、そのやり方を見ると労務政策の一貫としてあるように思うがどうか。また、気動車運転士養成の将来的な道筋をはっきりさせてほしい。

#### ●九六年度新執行部

支部長	牧野光一
副支部長	渡辺直和
書記長	山口良夫
執行委員	朝生富夫
"	斉藤宣勇
"	赤羽根宣夫
"	鈴木敏之
特別	鈴木博之
会計監査	佐久間英雄
"	鹿島正己

● 転換教育でその場しのぎ的な要員補充が行なわれる一方で、予科生など免許をもった者が動労千葉だというだけで外されたままになっている。この問題を早急に解決してほしい。

● 本社電車課が、久留里電化の調査だと言つて添乗に来ている。電化の動きがあるのかどうか。

● FMVという、全く使っていないのコンピュターが、支区に二台送られてきている。大きな区では五、六台きていると聞いている。各駅にも配置されている。一体これはどういう意図なのか。

大会は、質疑ののち、提案された議案を満場一致で確認し、新執行部を選出、大成功のうちに終了した。

